棚田保全活動情報発信事業報告

泉谷棚田を核とした地域づくりへ
～農業＋αの生業づくり～

泉谷地区棚田を守る会
事務局長　中川　稔徳

10年歩むか5年走るか

平成11年に泉谷が日本棚田百選に選定されたことを受け、「泉谷地区棚田を守る会」は発足しました。

これまで、御祓自然浴ツアーや、農作業体験である棚田オーナー事業、しゃくなげによる景観整備事業などの活動をしてきました。

しかしながら、地域は高齢化し、棚田を未来へ継承するための後継者養成という課題解決に至っていません。そこで、3年前に、このまま同じことを10年続けて終わるか、可能性を信じ5年で潰えたとしても全力で事業を発展させるかを議論しました。

結論として、会は後者を選択しました。移住につなげるため、これまでの棚田での交流を糧として、地域全体を活性化する事業を展開し、更に定住につなげるため、棚田を活用した農業＋αの生業づくりを目指すことにしたのです。

棚田オーナー事業

何をすればいいのか

まず会では、事業展開を図るために計画を立てました。その内容は次のようなものです。

1米の全国販売　2産品の開発・販売
3宿泊所運営　4体験商品開発
5農家レストラン　6移住者募集
7廃小学校の活用　8農家民泊の推進
9SNSを活用した情報発信
10全国組織との情報交換

この3年で進んでいない部分もありますが、現在は、なんとか会員拡大にもつながり、これまで交流をしてきた方々の支援も受けながら、地域が前進していることは間違いないと思っています。ちょうど泉谷をテーマにしたドキュメンタリー番組が、多くの賞を受賞したという幸運にも恵まれましたが、これまでに、棚田米の販売量は増え、宿泊所も整備・稼動、体験商品企画も進んでいます。平成29年には、情報発信のためのパンフレットも制作でき、御祓のお土産開発として、どぶろく御祓（泉・花）を開発し、満を持して東京の大きな展示会で全国の棚田の仲間と共に展示PRを行ったところです。

御祓の交流事業

我々の交流事業は、飾らないことを第一に考えています。なるべく地域課題を隠さず、交流者と共有し、観光地というよりも関係地となることを目指したいと思っています。

どこまで走り続けられるかは分かりません。過疎地域は、マンパワーに限りがあり、人の代わりが居ない状況が常です。活動には、明日終焉を迎えるかもしれないという不安が付きまといます。しかし、時間は進み続け、我々は年をとっていきます。地域全体の皆で活動できるチャンスは、今後訪れないかもしれません。我々は目線を上げて、今出来ることを全力でやって、前に進むしかないと思っています。

エコプロダクツ

集落新聞「SKN（宿名）新聞」を核とした集落活性化事業報告

「海は繋がっている」～人と人、昔と今、海と陸が繋がっている～

伊方町 まちづくりグループSKN
代表 正岡 英彦

SKNは伊方町豊之浦地区の昔の呼び名です。SKNは宿名（すくな：SuKuNa）と呼びます。活動の始まりは地域の少子高齢化と人口減少。「これではいかん」と有志がグループを立ち上げ、地区のみんなを奮い立たせました。

まずは「嫁さんみつけ隊」から

地元の独身男性にお嫁さんを。これはグループのみならず、地区全体の大きな願いです。8月中旬に松山市花園町で婚活イベント「Summer party！－い～かたinまつやま－」を開催しました。豊之浦地区は漁師の町です。伊勢エビ、サザエ、鯛、えび、イカなどの海の幸を食材に、地元在住のイタリアンシェフが自慢の料理を提供しました。当日は30人ほどの参加者が集まり、イベントは大成功。今後に期待です。このパーティーは「SKN新聞」にも載せています。あーそうそう、SKNは集落新聞を発行しています。年間数回の不定期ですが、地区の魅力やイベント情報、昔話やとんち話などを掲載しています。こちらも地域の方々には大好評。グループのメイン活動です。

SKN新聞

次は「マスコットキャラクター」のお話

「豊之浦にもキャラクターを」ということでスタートした「とよキャラグランプリ」。地区の小学生を中心に考えて作ってもらいました。見事グランプリに輝いたのは「かいもりちゃん」です。階段と森がたくさんある豊之浦地区にふさわしいキャラクターが誕生しました。「かいもりちゃん」はSKNの妖精です。かわいくて不思議な・・・一度見に来てくださいな。

かいもりちゃん

最後は「ふるさとCM大賞」のお話

3月にCM大賞に参加させていただきました。結果は第3位、愛媛県市長会会長賞を受賞しました。みんなで集まり、みんなで考え、豊之浦のノンフィクションの昔話をCMにしてみました。楽しくて朗らかなCMです。

準備から絵コンテ、昔の着物、昔のごちそう（お客）、いろいろたいへんでした。でもCM制作がはじまると、みんなが一つになり、まちづくりグループが認めてもらっているとひしひしと感じました。

まだまだ力不足ですが、地域に密着した魅力的なまちづくりに貢献し、後に引き継いでくれる若者を育てていきたいと思います。